

2025年度 出題内容の分析と出題の意図

数 学	公募制推薦入試 前期日程
-----	--------------

●出題内容

試験時間	60分		
出題形式	大問ごとに分野が分かれ、空欄補充が出題される。		
解答形式	マークセンス方式		
難易度	日程や学部によって問題は異なるが、いずれも教科書の章末問題に近い難易度である。日程によっては教科書の練習問題に近い難易度の出題もあるが、問題量と試験時間を考えると、あまり時間をかけずに解答する必要がある。		
問題の内容 (構成)	科目名	大問番号	
		〔Ⅰ〕	〔Ⅱ〕
	8 数学①	小問集合	小問集合
	13 数学②	小問集合	小問集合

●出題の意図

8、13ともマークセンス方式の小問集合からなる。

8では数学Ⅰ・A（図形の性質、場合の数と確率）、13では数学Ⅰ・Ⅱ・A（図形の性質、場合の数と確率）・B（数列）・C（ベクトル）における基礎的事項をまんべんなく問い、全体的な学習熟度を測ることを意図している。

8〔Ⅰ〕は、整式の因数分解と2次方程式、集合と命題、1次不等式の利用、データの分析、〔Ⅱ〕は、確率、平面図形の性質、空間図形の性質、それぞれに関する、知識と理解力を問う出題となっている。

13〔Ⅰ〕は、対数の性質、場合の数、三角比と平面図形、三角関数の加法定理の応用、〔Ⅱ〕は、平面上のベクトル、数列と漸化式、微分法・積分法の応用、それぞれに関する、知識と理解力を問う出題となっている。

●受験生へのアドバイス

試験問題は、それぞれの試験範囲の各分野からまんべんなく出題している。高得点を目指すためには、どの分野も幅広く、基礎・基本を押さえて勉強し、できるだけ苦手分野がないようにしておくことが望ましい。

また、限られた時間で全問を解くためには、各分野の理解力はもちろんのこと、計算を手際よく行えることも必要である。計算力は大学での授業や研究のためにも必要な能力である。計算力を養うために、日頃から怠りなく手を動かして計算することを勧める。

2025年度 出題内容の分析と出題の意図

数 学

一般選抜 前期日程

●出題内容

試験時間	70分			
出題形式	大問ごとに分野が分かれ、空欄補充が出題される。			
解答形式	マークセンス方式			
難易度	日程や学部によって問題は異なるが、いずれも教科書の章末問題に近い難易度である。試験時間に対して問題量はやや多めである。			
問題の内容 (構成)	科目名	大問番号		
		〔Ⅰ〕	〔Ⅱ〕	〔Ⅲ〕
	37 数学①	2 次関数	場合の数と確率	三角比
	39 数学②	小問集合	3 次関数	ベクトル
	44 数学③	小問集合	微分法	－

●出題の意図

出題のねらいは、基本事項を理解しているか、数学的思考力が備わっているか、計算力が身に付いているかをみることにある。多くの場合、3つの大問が出題され、〔Ⅰ〕は小問集合で、教科書の練習問題から章末問題程度の問題で構成され、基本事項の理解と基礎的な計算力を問うている。〔Ⅱ〕、〔Ⅲ〕は基本事項の理解を背景に数学的思考力を問う総合的な問題である。前半は各分野の基本事項に関する設問、後半は思考力や計算力を問う設問で構成されている。解答の流れを掴みやすいように誘導形式であることが多く、教科書の章末問題に近い難易度となっている。

●受験生へのアドバイス

① 各分野の基本事項をまんべんなく学習しよう

いずれの大問にも基本事項を問う設問があり、意外と配点が高い。教科書や教科書傍用問題集等を利用して基本事項に対する理解を深めよう。また、〔Ⅰ〕は小問集合となっており、4，5題ほど出題されている。出題分野の偏りも見られないため、どの分野もまんべんなく学習して、苦手分野をなくしておこう。

② 計算力を高めよう

全問題マークセンス方式で、マークは数字のみ（例外的に選択肢をマークすることがある）。そのため、計算ミスは致命的といえる。せっかく正しい方針で解いても、計算ミスがあれば得点はない。日頃の学習において、最後まで正確に計算することを意識しよう。

③ 過去問を研究しよう

出題形式は空欄補充だが、いずれの問題にも出題者から皆さんへのメッセージが込められている。そのメッセージを読み解くように過去問に向き合ってほしい。日頃の学習では、数字を空欄に埋めることは意識せずに、自分の言葉で問題の答えを仕上げる練習をしてみよう。